

CONTENTS / INDEX

新春賀詞交歓会 1~2

土木委員会とさいたま市の
意見交換会 3~4

土木委員会 4

第2回 理事会 5

新年挨拶回り 6

震災パト予行演習 6

浦和支部視察研修会 6

第13回 さいたま市
優秀建設工事業者表彰 7~8

平成31年 新春賀詞交歓会 まちづくりへの決意新たに

平成31年の新春賀詞交歓会が1月24日午後5時30分からロイヤルパインズホテル浦和で開催された。さいたま市の清水市長、日野副市長、松本副市長、さいたま市議会の浜口まちづくり常任委員会委員長、都築副委員長の来賓をはじめ、SIAさいたま建築家懇話会から片渕会長ら5人と、報道関係4社が出席したほか、当協会会員代表など約130人が出席し、新年のあいさつを交わした。(2面へ続く)



日野副市長の乾杯発声で開宴

「市民に愛される協会へ」斎藤会長

松永副会長の開会の言葉に引き続き、あいさつに立った斎藤会長は、「日本への観光客が増えています。以前は、日本から香港などに買い物に行っていましたが、今は日本の方が物価が安いので、日本に買い物に来ます。まだまだ日本の物価と給料が低いという証だだと思います。ぜひ、市長さんには給料が上がり適正な物価となるような経済にしていだけるようお願いしたい」とした上で、「特に人件費に関し、これから外国人労働者が多く入ってくる見込みですが、聞くとところによると、賃金が安いので日本に行くより、他の国に行った方が賃金が高いということでそちらに流れてしまう傾向があるようです。政府が考えるような外国人労働者が確保できるのか、心配な面があります」と語った。また、テレビ番組で取り上げた地方のコーヒー店について、「南米に自社農園を持ち、日本トップクラスのバリスタを育て上げるなど理想のコーヒーを追求し、それが評判となっているお店でした。地域に根差し、イベントなどではコーヒーを無料提供していました。それは、宣伝ではなく、地域へのお礼の意味だということです。協会もぜひ、市民に愛されるよう、恩返しができるよう、無くてはならない存在となれるよう頑張りたいと思いますので、皆様方のお力添えをお願いします」と呼び掛けた。

平成31年 さいたま市建設業協会



主催者挨拶をする斎藤会長

来賓あいさつでは清水市長は、「去年はさいたま市が政令市となってちょうど15周年。ついに人口が130万人を突破するという記念すべき年になった。住みたいまちランキングの関東版で大宮、浦和がベスト10に入り、市民意識調査でも84.2%が“住みやすい”という過去最高の数字となった。これも建設業協会の皆さんはじ

「運命の10年に基盤整備」清水市長

め、多くの皆さんのおかげ」と感謝した。さらに、「平成31年は、平成最後の年であり、新しい年号に変わる年。消費税の10%引き上げなども予定されている。さいたま市にとってもいろいろな影響を受ける年になると思う。私たちは、人口減少が始まるまで、これからの10年間で“運命の10年”と呼んでいる。それまでに、しっかりとした基盤整備をしていく、まちづくり、都市機能をしっかりと確立していくというのが目標だ。首都圏広域地方計画の中で、さいたま市は東日本の対流拠点に位置付けられており、これから東日本と首都圏をつないでいく役割が期待されている。また、国土形成のスーパーメガリージョン構想では、首都圏と名古屋、大阪の経済圏ともつながっていくことが期待されている」とし、「そのためには、まず、広域的な交通網、道路、鉄道、空港とのアクセスといったものを充実させ、それにふさわしい都市機能を拡充していく必要がある。身近な道路などを含め、社会基盤の整備のすべては建設業協会の皆さんに大きな力をお借りしなければならない。しっかりと連携し、皆さんの技術力、地域密着のサポートをいただき、まちづくりをしていきたい。しっかりと前に進めるよう、ご支援をいただきたい」と語った。

また、市議会を代表して浜口まちづくり常任委員会委員長が、新藤市議会議長からのメッセージを代読。「さいたま市の魅力あるまちづくりには皆さんのご協力が不可欠」とあいさつした。

続いて、日野副市長の乾杯発声で開宴、しばし和やかに歓談が続いた後、高橋副会長の締めで閉会となった。

来賓挨拶



来賓挨拶をする清水市長



来賓挨拶をする浜口委員長

土木委員会とさいたま市の意見交換会 週休2日制など協議

当協会土木部門現場サイドとさいたま市との意見交換会が、1月22日午後2時から埼玉建産連会館で開かれた。土木委員会からはまず、これまでの意見交換会による成果を市側に感謝。続いて、5項目を提案、質問、協議した。さいたま市からは、総合評価方式特別簡易型の導入について説明。標準見積書の活用を要請した。



当日は、市から北部建設事務所、南部建設事務所、建設局技術管理課、財政局契約管理部契約課の職員16人が、協会からは土木委員会正副委員長、委員、会員企業現場責任者など18人が出席した。

冒頭、猪股土木委員長と建設局南部建設事務所次長が挨拶、実り多い会議となることに期待した後、協議に入った。

【土木委員会からの提出議題等】

■現在の市の取組について(荒木副委員長)

前回の意見交換会以降、改善された事項を挙げ、市側に感謝した。

▽下水道事業の補償業務がなくなり、業者からの感謝の声が多い(H29.4～)▽工事記録様式の改訂により、協議が確定している変更増額を、工事の途中でも契約していただけるようになった(H30.4～)▽工事内で「天災」に遭った場合に、その対応を工事外費用として認め、増額対応していただけるようになった。

■技能労働者の賃金について【前回から継続(報告)】(滝川委員)

土木会員56社にアンケートをとり、技能労働者の雇用状況や、賃上げの状況を確認した結果を報告した(集計資料配布)。

「能労働者について」におきましては、『自社およびグループ会社で直接雇用している』と回答した会社の

9割以上が賃上げ、または賃上げ以外の対応(賞与・手当・月給化等)をしており、技能労働者の賃金への反映に取り組んでいる結果となりました。「外注労務単価について」におきましては、回答会社の9割以上が外注労務単価の上昇を感じており、実際に単価上昇に取り組んでいる会社が8割にのぼる結果となりました。このアンケート結果より、全体的に設計労務単価および外注労務単価の上昇を感じており、これに伴い実勢単価の引き上げを意識し取り組んでいるものと思われます。

市の意見：今後も、引き続き調査を継続していただきたい。

■建設工事における週休2日制の導入について【前回から(継続相互協議)】(北委員)

①今年度の発注実績(件数、クラス、工事内容など)を教えてください。

回答：29年度に13件を発注。30年度は昨年12月までに46件を発注し、徐々に大きな工事も増えている。工種は、道路工事、水道工事、下水道工事などが多い。

②各モデル工事完成後のアンケート結果がどのような傾向にあるか、教えてください。

回答：アンケート結果の概要として次の傾向が分かった。▽4週6休が多い▽3分の2で休日を取得できた▽下請け会社は休日分の補填を要望▽契約工期は約9割が妥当と感じている▽改善要望として、年度末は困難、書類が複雑など▽感想として、どちらかというと否定的な意見が全体の約7割を占める。

③大型工事への導入にあたり、懸念していることがあれば教えてください。

回答：協会へのアンケートの結果として、▽4週8休だけでなく、7休、6休にも対応してほしい▽受注者希望型で実施してほしい▽労務費の割増を増やしてほしい▽ゆとり期間の設定が難しいーなどの意見があった。市としては、受注者希望型も検討したい。

④平成31年度の週休2日モデル工事の発注方針が決まっていれば、教えてください。

回答：方向性は定まっていない。周辺自治体の動向や、意見交換会での意見を踏まえて検討したい。

■動き方改に伴う効率化について【提案】(富田委員)

①業者が働き改革を進めていくには、これまで以上に工事の効率化(Co構造物の2次製品化や、管路の非開削工法、ICT施工など)が必要になると考える。今後

は工事の設計時に、これまで以上に効率化の観点を加えて計画していただきたい。また、設計変更時にも、効率化への提案には、承諾ではなく協議にてご対応いただきたい。

回答：国の標準的な設計においてもプレキャスト化は進むと思う。動向を注視しながら、可能なものは2次製品化していきたい。提案による施工方法の変更は難しい。

■設計変更の上限比率について【質問】(金本委員)

工事の増額は受注金額の3割が上限と伝えられたとの意見が複数あり、市の考え方をお教えいただきたい。

回答：市のガイドラインでは、原則として3割が上限だが、分離が著しく困難な場合はこれ以上の増額も可能となっており、実施例もある。

■設計図の明示について【前回から継続お原い】(南委員)

施工パッケージ型積算方式における機労材構成表についても、対価表のように設計図書として明示していただきたい。特に施工パッケージについて、技術部会の選抜者数名と貴担当者で、小規模な意見交換の場を設けていただきたい。

回答：(施工パッケージ型積算方式の概要を解説)国総研のホームページなどを参考にすれば、適切な積算ができると考えている。機労材構成表は他の自治体でも公表しているところは少ない。

小規模な意見交換の場に関しては合意し、年度内に開かれることになった。

【さいたま市側からの説明・提案議題】

■総合評価方式特別簡易型の導入について

平成31年1月から導入。目的は、受発注者の事務負担軽減、担い手育成など(若手技術者の配置、手持ち工事量を評価項目に新設)。発注時期は確定していない(4月改正ではないことを参考にしてほしい)。対象工事は、技術的な工夫の余地が少ない工事。原則として、比較的少額の案件となる。件数は決まっていないが、徐々に増やしていきたい。

【その他】

さいたま市から標準見積書の活用について説明があった。必要な金額をしっかりと確保してほしいとの要望があった。

第2~4回 土木委員会 意見交換会に向け協議

1月22日に開催予定の市との意見交換会に向け、本年度第2~4回の土木委員会(猪股和則委員長)が昨年11月26日から1月11日の間に3回開催され、本年1月22日に開催予定の市との意見交換会に向けた協議事項、提案事項などが話し合われた。

第2回土木委員会は昨年11月26日午前9時30分から、浦和コミュニティセンター13集会室で開催された。意見交換会に向けた事前アンケートの内容のほか、大規模災害マニュアルにおける浦和区のパトロールエリア見直しなどについて協議した。

第3回土木委員会は昨年12月27日午後1時30分から、浦和コミュニティセンター7集会室で開催された。これまでの市との意見交換会の成果、今回新たに行った土木会員へのアンケート調査の結果を踏まえ、意見交換会で話し合う内容について協議した。

第4回土木委員会「技術部会」は本年1月11日午後1時30分から建産連会館202会議室で開催された。現在の市の取組、前回の意見交換会からの継続事項、土木会員へのアンケート調査の結果などを踏まえ、週休2日制導入への課題などについて協議、提案、質問などを行うことを決定した。

協会から土木会員へのアンケートでは、56社に配付し、38社から回答を得た(回答率68%)。

「近年の設計労務単価の上昇に伴い、賃金単価を上昇させていますか」という質問に対して、【賃上げをしている】は24社(96%)、【賃上げ以外で対応している】7社一で実際に単価上昇に取り組んでいる会社が8割にのぼる結果となった。「外注労務単価を上昇させていますか」との質問に対しても【上昇させている】が29社(81%)で8割にのぼる。



第2回 土木委員会

第2回 理事会開く 平成31年度 予算案などを協議

本年度第2回目の理事会が12月12日午後5時から、浦和ロイヤルパインズホテルで開かれ、平成31年度予算案・事業計画案などを審議。各支部・委員会の活動について報告を受けた。

会の冒頭、斎藤会長は、「協会の財政がひっ迫しており、支部交付金の引き下げなど支出の圧縮をお願いせざるを得ない。状況をご理解いただき、限られた予算の中で活発な活動をお願いしたい」とあいさつした。

【議案】

平成30年度、後期交付金の減額及び3月発行予定の会報について

30年度後期の交付金を減額し、3月発行予定の会報についてページ数を減らすなどの工夫を行い、事業費圧縮に努めることを諮り承認された。

平成31年度予算(案)について

31年度の収入は30年度に比べ320万円の減となる見通し。このため、事業費、交付金を中心に支出減を図る方針を伝えた。今後、細部を精査することを前提に、暫定的に承認された。

平成31年度事業計画(案)について

6項目を柱とする事業計画案を説明。承認された。

【経営基盤の強化】

▽時代とともに変化する、社会の要請を的確に捉え、自律性、創造性を向上させ、地域社会の期待に応える企業を目指す▽「労働災害防止」を最優先に、常に環境保全を心掛けるとともに、地域住民への配慮に努める▽諸法令の遵守、企業倫理憲章を基本とし会員の資質の向上とイメージアップに努める

【各種委員会活動】

▽各委員会を中心に、それぞれの専門分野で、必要性のある活動を推進する▽建設業協会を取り巻く諸問題に対して積極的に対応して、協会の基盤強化を図る

【要望活動】

▽安定的な経営に向け、積極的に行政機関へ要望・提言を行い、地域建設業の振興と地域社会の発展に寄与する

【大規模災害への取り組み強化】

▽災害時における、動員体制、活動について本会会

員への周知に努める▽災害時における被害の拡大防止及び被災施設の早期復旧に努める

【関係諸団体に対する協力】

▽公益性のある諸事業に対し、積極的に協賛及び参加等を行う

【その他、本会の目的達成のため必要な事業を行う】

【報告】

各支部・委員会の活動について(各支部長・委員長報告)

○総務委員会—予算圧縮に対応する。

○土木委員会—平成31年1月22日にさいたま市との意見交換会を予定している。契約課も参加予定で、簡易型総合評価の説明を受ける。また、震災応急復旧マニュアルの内容について見直しの協議を進めている。

○建築委員会—市との意見交換会開催を協議している。

○設備委員会—管工事組合はでラオスからの研修受け入れを協議している。委員会でも外国人労働者の受け入れ問題について勉強していきたい。

○電気委員会—市の発注工事について、より適切な入札制度となるよう要望していきたい。

○環境問題委員会—エコキャップ回収活動などを展開している。新たな事業にも取り組んでいきたい。

【その他】

簡易型総合評価制度について

事務局より、さいたま市から簡易型総合評価制度について市のホームページに掲載したとの連絡があったことを報告した。

東日本建設業保証のアンケートについて

事務局より、東日本建設業保証から地域建設業の現状調査アンケートへの協力依頼があったことを報告した。



新年挨拶回りを実施

当協会役員らによる、さいたま市役所新年あいさつ回りが、1月18日午前10時50分から行われた。

当日は、斎藤会長をはじめ、片山副会長、高橋副会長、首藤副会長、松永副会長、関根支部長、三浦支部長が参加。清水市長とは、新年のあいさつを交わした後、さいたま市の人口、女性の活躍、人手不足、ものづくりなどを話題に懇談した。

その後、日野副市長松本福市長を訪問し、市の今後の方向性などについて懇談。財政局、建設局の各課などを回った。



社会貢献事業委員会 震災パトロールの予行演習実施

社会貢献事業委員会(阿久津洋和委員長)は平成30年10月16日に、災害発生時に会員らへの連絡体制機能などを確認するため予行演習を実施した。

当日は午前9時30分に、さいたま市内を震源とした震度5強の地震が発生、市内各地で被害が発生しているという想定のもとに、協会事務局に災害対策室を設置。

演習は、阿久津委員長と田中副委員長が、市内各区に置かれている責任会社10社に対し、「緊急パトロールマグネットシールを車に貼り付けてパトロールを開始するよう」指示。連絡を受けた責任会社は、緊急連絡網により各区の土木会社に伝達するというシミュレーションのもとで行われた。



浦和支部が視察研修会 JAXA筑波宇宙センターなどを視察 つくばの街並みに感嘆

浦和支部(関根信次支部長)は昨年11月19日に、つくば未来都市づくりとJAXA筑波宇宙センターの研修視察を実施、支部会員21人が参加した。

午前9時前に浦和駅西口の伊勢丹前に集合し観光バスに乗り込んだ一行は、外環道・常磐道を通った後、つくば市内を車中から視察。地域に精通する内田理事が市の変化や、特徴、名物、市内での工事内容などを紹介した。

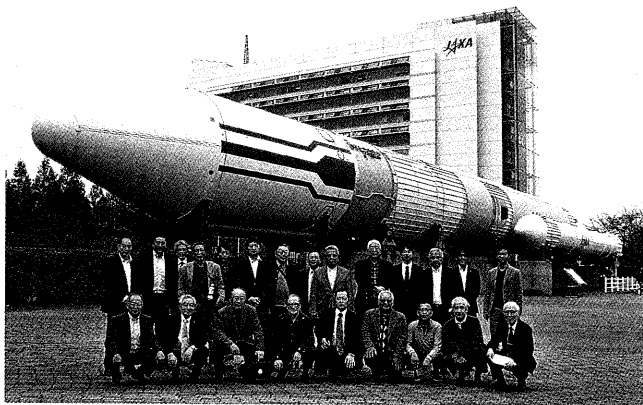
昼食はつくば市内のホテルグランド東雲で和洋中折衷の弁当を堪能。その後、JAXA筑波宇宙センターに向かった。

センター到着後、まず、ロケット広場にあるH-IIロケットの実機(延長約50m)前で集合写真を撮影。自由見学で展示館「スペースドーム」、プラネットキューブなどを回った。スペースドームには、データ中継技術衛星「こだま」や陸域観測技術衛星「だいち」、月周回衛星「かぐや」などの試験モデル、燃焼試験で使われた本物のロケットエンジンなどが展示されている。船外活動用宇宙服レプリカから顔して記念撮影する姿も見られた。

その後、ガイド付きの見学ツアーに参加。ビデオ上映後、「きぼう」の運用管制室や宇宙飛行士養成エリアを見学した。

見学終了後は、笠間市の笠間稲荷神社に参拝。当日は菊まつりが開催中で、華やかな雰囲気の中で業界の繁栄などを祈った。

研修会終了後はさいたま市の浦和ロイヤルパインズホテルに移動。中国料理「彩湖」で懇親会を開催。親睦をさらに深めた。



H-IIロケットの実機前で

第13回 さいたま市 優秀建設工事業者表彰 会員からは11工事11社が受賞

さいたま市は昨年11月26日午後3時30分から、ときわ会館5階大ホールで第13回「さいたま市優秀建設工事業者表彰式」を開催した。

主催者を代表して清水市長が、「平成13年に誕生したさいたま市は、今年、政令指定都市に移行してから、15周年を迎えた。本市が人口のピークを迎える2025年ころまでのおよそ10年間は、本市が持続的に成長・発展を続けるために大変重要な時期となる。この期間に上質な生活都市づくり、東日本の中枢都市づくりを行うことが重要なテーマとなっている。この実現には建設業の果たす役割が大変重要だと認識している。今後は施工時期の平準化、週休二日制工事や、情報化施工といった、働き方改革や生産性の向上に向けた取組を推進し、労働環境の改善、魅力ある建設業の発展を支援していきたい。引き続き市へのご理解・ご協力を賜りたい」とあいさつした。

表彰対象はさいたま市発注で平成29年度に完成した請負金額500万円以上の770件の建設工事の中から、市内に本店を有するもののうち、工事成績評定点が優れた14社（JV構成員含む）の14工事が選定された。このうち、当協会会員企業は11社11工事（JV構成員含む）で、とだか建設は3工事、斎藤工業は2工事が表彰の対象となった。

当日は来賓として当協会から斎藤会長、松澤事務局長らが出席、祝辞に登壇した斎藤会長は、「本日受賞された各社は、平素より品質管理に努め、適切な工事に取り組んだ成果が評価されたもので、心より敬意を表する」と受賞者を讃える一方、「昨今の建設業界は、生産人口の減少、技能労働者の高齢化などに加え、働き方改革が待ったなしとなり、労働環境が大きく変わろうとしている。今後は、発注者、受注者双方の協力が不可欠であり、災害対応にも支障のないよう、適正な価格で、適正な工事の施工に向けた一層のご支援をお願いしたい」と述べた。

その後、受賞者を代表して、カタヤマととだか建設が、表彰された工事について工夫した点と、会社概要、主な実績などについてのプレゼンテーションを行った。

受賞業者と受賞工事（会員企業）は次のとおり。

【土木工事部門】

▽カタヤマ▽とだか建設▽大和道建設▽佐伯工務店
▽ケイワールド日清・松永建設特定共同企業体（代表構成員：ケイワールド日清 構成員：松永建設）▽斎藤工業

【建築工事部門】

▽田中・スミダ・共栄特定共同企業体（代表構成員：田中工務店 構成員：スミダ工業、共栄建設）▽柏木建設

【水道工事部門】

▽斎藤工業

※8面に受賞者写真を掲載

秀建設工事業者



挨拶する清水市長



来賓挨拶をする斎藤会長



カタヤマがプレゼン



とだか建設がプレゼン



受賞者全員で記念撮影

協会行事

今後の予定

4月23日 第1回理事会（市民会館うらわ）

5月29日 定期総会（ロイヤルパインズホテル浦和）

平成30年度 さいたま市優秀建設工事事業者



(株)カタヤマ
街路築造工事
(道場三室線2工区その9)



(株)とだか建設
街路改良工事[大宮岩槻線(芝川工区)],
道路改良工事(鶴巻ICその9)、
日進櫛引排水区下水道工事(北建-28-202)



大和道建設(株)
道路改良工事(市道12721号線)



(株)佐伯工務店
(仮称)宝来グラウンド・
ゴルフ場整備工事



**ケイワールド日清・
松永建設特定共同企業体**
羽根倉橋(上り線)耐震補強及び
補修工事その2



斎藤工業(株)(土木工事部門)
荒川第3-3処理分区下水道工事
(北建-28-102)



**田中・スミダ・
共栄特定共同企業体**
市営峰岸住宅建設(建築)工事



柏木建設(株)
城南小学校外壁等改修工事



斎藤工業(株)(水道工事部門)
老幹12号(φ600mm)
配水本管布設替工事

企業倫理憲章

私たち会員企業は、豊かさが実感できる、全国13番目の「政令指定都市 さいたま市」の創造的な都市基盤整備の担い手であることを誇りとし、積極的に企業倫理や社会的責任を果たしていくことを誓います。

私たち
会員企業は

1. 諸法令を遵守し、公正な企業活動と経営に努めます
1. 美しい自然環境との共生、循環型環境社会の構築に努めます
1. 経営者の倫理観として、常に企業活動の説明責任に努めます
1. 優れた技術者集団として、社会的責任を果たすとともに、技術の研鑽に努めます
1. 地域社会の一員として、積極的に社会貢献活動に努めます